

新しい Web サービスと学校図書館: Twitter を中心として

東京都 今井福司 (東京大学大学院教育学研究科・特任研究員)

司書教諭講習科目「情報メディアの活用」のテキストを開くと、インターネットの活用がほぼ確実に登場する。そして学校図書館関係者が身につけるべきスキルとして、リンク集の構築や Web ページの評価方法が取り上げられている。しかし、インターネット上の Web サービスは日々新しいサービスが登場し、テキストの内容だけでは必ずしも十分ではない状況が生まれている。本稿では、そうした新しいサービスの例としてミニブログサービスの Twitter を紹介し、Twitter が学校図書館関係者にどのようなメリットがあるのかについて解説したいと思う。

Twitter は 2006 年よりアメリカ Obvious 社によって提供され、2008 年からは日本語版サービスが始まった。さらに 2009 年に著名人が Twitter を始めたことから一般へと普及した。

それでは、Twitter が提供するサービスについて、基本的な機能、Tweet, Reply, Follow, Hashtag, Retweet の 5 つに触れながら紹介する。

Twitter にログインすると、自分のアカウント名と設定したアイコンが表示される。それから「タイムライン」というメッセージが表示される場所が現れる。最初の段階では「タイムライン」には何も表示されていないが、自分が投稿した内容や後述するフォローしたアカウントの投稿内容が今後「タイムライン」上には表示される。

最初に、Tweet 機能の説明を行う。Tweet は通称「つぶやき」とも言われ、140 文字以内でのコメントを行う機能である。

次に、Follow について説明する。最初の状

態ではタイムラインには自分の発言しか現れないが、他の人のアカウントを登録することで、その人の「つぶやき」が一緒に表示されるようになる。これを Follow と呼ぶ。Follow の数を 20, 30 と増やすと情報量が増えるだけでなく、他人同士の Reply のやりとりが見えるようになってよりコミュニケーションが豊かになるメリットがあるので、ある程度の数まで増やすことが推奨されるが、フォローしすぎると情報を追いきれなくなるので注意が必要である。ただし全部のメッセージを追わずに流し読みすることも利用方法の 1 つとして推奨されている。

3 番目の Reply とは「つぶやき」の先頭に @ をつけることで、特定のユーザー向けの投稿ができる機能で、発信側と受信側の双方の「タイムライン」にその発言が表示される。なお、発信側と受信側の両方を Follow しておくと、自分はその発言に関係なくても Reply の内容が「タイムライン」に現れるため、単なる個人への返事としてではなく、同じ関心を持った集団への広報として使われている例もある。

4 番目の Hashtag というのは半角の # と英数字で構成されるラベルであり、普通の発言の最後に半角のスペースを 1 文字以上入れて、入力する。予めどのようなラベルをつけるかを決めておき、「つぶやき」を投稿する際にこのラベルを付与することで、特定の話題に関する「つぶやき」を束ねることが可能になる。

最後に Retweet とは他人の Tweet の再投稿機能であり、自分をフォローしているアカウントへ情報を周知させたい場合に用いる。

Retweet 機能を用いることはブログで他の人の記事を引用して紹介することに近い。

こうしたアクションは他のツール、例えばメーリングリストでも可能な行為ではある。しかしメーリングリストは参加人数が増えてくるに従って、メッセージの量が多くなりすぎることや、気軽に発言しづらくなることもある。メーリングリストの場合、こうした状況が煩わしいと感じたら退会をするしかなかった。その点、Twitter は情報量が多すぎると思えば Follow を外して、目にする情報を減らせるし、また増やしたいと思えば再度 Follow し直せばよい。あくまでも気軽に参加できるのが Twitter のメリットである。

このように気軽に参加できることもあって、Twitter は図書館員、図書館関係の研究者の間でも広く使われている。Twitter をきっかけとして、他図書館の見学ツアーの実施、研究会・勉強会など、オフライン上でのイベントに結びつく事例も見られる。また、講習会や講演会のイベントについて、有志が Twitter 上で実況を行うこともあり、その場になくても、議論された内容を把握できることもある。人によってその活用方法は多様であるが、特定の話題やニュースをきっかけにコミュニケーションを取るという点では共通している。

そして3月11日に発生した東日本大震災に対して、Twitter を介し新たな動きが起きた。それが saveMLAK である。saveMLAK は自治体や公的機関の対応が遅れる中、Twitter を起点として、被災地の図書館の被災状況をまとめる Web サイトとして開始された。現在では、類似の取り組みを行っていた美術館、博物館、公民館の動きと合流し、各種文化施設について、被災地の情報や専門技能ボランティアの情報を集約する作業が続けられている。Twitter

上で、#saveMLAK という Hashtag で検索をかけると、多くの発言が出てくるのでご覧頂きたい。学校図書館については十分な情報が掲載できていないため、関心のある方は更新作業に関わって頂ければ幸いである。

以上見てきたように、これまで司書教諭講習のテキストで扱われてきたサービスとは異なり、Twitter は単に情報を発信するだけ、受信するだけの関係ではなく、相互にコミュニケーションを取れるのが特徴だといえる。

では、Twitter は学校図書館にとってどのようなメリットがあるのだろうか。私は、様々なニュースや人々とつながったり、つなげたりできることであると考えている。例えば、研修会に参加し様々な人と知り合うためには時間を取って、会場まで赴く手間が生じる。しかし現場では、様々な要因から時間を捻出することが困難である場合が多い。Twitter はこうした状況を補完し、情報を得るためのツール、それを題材にコミュニケーションを取るためのツール、そして情報を発信するためのツールとして役に立つと考えている。

【参考資料】

* 原聡子. 図書館による Twitter 活用の可能性. カレントアウェアネス, no. 304, 2010. p. 4-5.

* Kwansei (20100701) .

URL:http://www.slideshare.net/arg_editor/kwansei20100701 (2011/6/8 参照)

【参考となる Web サイト】

* Twitter. URL: <http://www.twitter.com>

* saveMLAK. URL: <http://savemlak.jp>

* 図書館関係者リスト (@arg さん作成)

URL: <http://twitter.com/arg/library-science>

* 学校図書館関係者リスト (@lomolib さん作成)

URL: <http://twitter.com/lomolib/school-library>